

黒川康先生の略歴と主要業績

黒川康先生は立教大学文学部史学科・史学専攻教授として過去一五年にわたり、近・現代を中心としたドイツ政治社会史研究に従事し、かつ学生の教育指導にあたつてられましたが、二〇〇五年三月三十一日をもつて定年退職されました。以下にその略歴と主要業績の一部を紹介して、長年にわたる立教大学史学会へのご貢献に対するささやかな感謝のしるしとしたいと思います。

一九四〇年一月二四日 生まれ

【学歴】

一九六五年三月 東京大学文学部西洋史学科 卒業
一九六七年三月 東京大学人文科学系研究科（西洋史学専攻）修士課程修了
一九六八〜七〇年 ドイツ ハイデルベルク大学 DAAD奨学生／ドイツ現代史
一九七〇年三月 東京大学人文科学系研究科（西洋史学専攻）博士課程単位取得退学

【職歴】

一九七〇年四月 信州大学人文学部専任講師
一九七二年四月 同 助教授
一九七三年四月 九州大学文学部助教授
一九八四年四月 東京女子大学文理学部教授
一九八九年四月 立教大学文学部教授

一九九六～九七年 ドイツ ミュンヘン バイエルン科学アカデミー客員教授

二〇〇五年三月 立教大学文学部定年退職

【立教大学内のおもな役職歴】

一九九二年四月～九四年三月 史学科長

一九九八年四月～二〇〇一年三月 史学専攻主任

一九九八年四月～九九年三月 立教大学史学会会長

主要業績一覧

【おもな著書・編著書】

一九七二 (共著) 『新訂西洋史』昭学社

一九八四 (共著) 『ドイツ史研究入門』東京大学出版会

一九八七 (共著) 『ドイツ現代史』山川出版社

【おもな訳書】

一九八〇 R・E・ハーツスタイン『ヒトラーとナチス第3帝国』(日本語版監修) タイム・ライフ・ブックス

一九八三 F・フィッシャー『世界強国への道』Ⅱ、岩波書店

【おもな論文・分担執筆】

一九六七 「ヒトラー一揆——ナチズムの擡頭の諸問題」『史学雑誌』第七六編第三号 史学会

一九七〇 「ドイツ国防軍と「レーム事件」——第一次世界大戦後のドイツ再軍備構想に関する一考察」『人文科学論集』第五号 信州大学人文学部文学科

黒川康先生の略歴と主要業績一覧

- 一九七一 「ナチス政権初期の諸問題」——「レーム事件」前史(その一)『史学雑誌』第八〇編第七号 史学会
- 一九七一 「ナチス政権初期の諸問題」——「レーム事件」前史(その二)『史学雑誌』第八〇編第八号 史学会
- 一九七二 『Die Reichswehr in Bayern 1923』『人文科学論集』第六号 信州大学文学部文学科
- 一九七二 「ヴァイマル共和国におけるプロイセン文部省とドイツ学生運動」『西洋史学』第八五号 日本西洋史学会
- 一九七三 「ドイツ・ファシズムの大衆宣伝に関する一試論」『歴史学研究』第三九七号 歴史学研究会
- 一九七四 「レーム事件」の経過とその意義——「第三帝国」の支配的権力構造をめぐって『季刊社会思想』第三卷第三・四号 社会思想社
- 一九七五 「ミュンヒェン革命とドイツ・ファシズムの発生」『史淵』第一一二号 九州大学文学部
- 一九七七 「バイエルンにおける革命と反革命——一九二二年のナチス党」『史淵』第一一四号 九州大学文学部
- 一九七七 「ドイツ革命とバイエルン農民」『西洋史学』第一〇四号 日本西洋史学会
- 一九七七 「ミュンヒェン革命とクルト・アースナー」柴田三千雄・成瀬治編『近代史における政治と思想』山川出版社
- 一九七九 「ミュンヒェン革命における諸社会層とレーテ運動」『史学雑誌』第八八編第二二号 史学会
- 一九八二 「ナチス・ドイツの権力構造——ナチス党と国防軍(一九三八年)」浅沼和典・河原宏・柴田敏夫編『比較ファシズム研究』成文堂
- 一九八二 「ナチス・ドイツの教育政策——中等学校における歴史教育」浅沼和典・河原宏・柴田敏夫編『比較ファシズム研究』成文堂
- 一九八二 「誰がファシストだったのか——ナチズム運動の社会的基盤」『唯物史観』第二三三号 河出書房新社
- 一九八三 「国民社会主義指導将校の歴史」『政治と思想(村瀬興雄先生古稀記念西洋史学研究論叢)』村瀬興雄先生古稀祝賀記念会
- 一九八四 「ヒトラーの歴史の意味」『歴史と人間との対話』九州大学出版会
- 一九八五 「ドイツ革命期における「赤軍」の社会的構成」『史論』第三八号 東京女子大学学会史学研究室
- 一九八七 「ヒトラーと国防軍」『歴史読本ワールド』第九号(『歴史読本』一九八七年一〇月号増刊) 新人物往来社

一九八八 「ウラソフ將軍とロシア解放軍」『歴史読本ワールド』第一三〇号（『歴史読本』一九八八年一〇月号増刊） 新

人物往来社

一九九一 「ナチ台頭とドイツ ―一九三〇年国会選挙を中心に」『法政史学』第四三号 法政大学史学会

一九九一 「ボルシェヴィキとドイツ参謀本部の密約」『歴史読本ワールド』第二卷第二号 新人物往来社

一九九五 「ワイマール共和国の崩壊とナチ党の台頭」『アドルフ・ヒトラー 権力編』（歴史群像シリーズ四二）

学習研究社

一九九五 「サラエボ事件 ―フェルディナンド最後の日」『歴史読本ワールド』第六卷第一号 新人物往来社

一九九八 「ドイツ国民国家における連邦主義と民衆 ―ライヒ改革（一九二八―一九三〇）とバイエルン」『史苑』第

五九卷第一号 立教大学史学会

【その他】

一九七九 「現代ドイツ（一九七八年の歴史学界―回顧と展望）」『史学雑誌』第八八編第五号 史学会

一九八二 「書評」山本左門著『ドイツ社会民主党とカウツキー』『史学雑誌』第九一編第一号 史学会

一九八五 「現代ドイツ（一九八四年の歴史学界―回顧と展望）」『史学雑誌』第九四編第五号 史学会

一九八八 「書評」蔭山宏著『ワイマール文化とファシズム』『史学雑誌』第九七編第四号 史学会

一九九〇 「書評」木村靖二著『兵士の革命 ―1918年ドイツ』『史苑』第五〇巻第一号 立教大学史学会

一九九一 「現代ドイツ（一九九〇年の歴史学界―回顧と展望）」『史学雑誌』第一〇〇編第五号 史学会

二〇〇三 「ドイツ政党本部回遊の記」『史苑』第六四巻第一号 立教大学史学会

二〇〇四 「一民族二国家論について」『現代史研究』第五〇号 現代史研究会